

フィリピン・マニラ首都圏の大学における 日本語学習者のビリーフ

歴史的・社会的背景の視点からの考察

高崎三千代

〔キーワード〕フィリピン、BALLI、多言語状況、教育、諸外国共通の調査

〔要旨〕

本研究は、フィリピンの日本語学習者のビリーフを歴史的・社会的背景から考察したものである。その結果、学習者は、公用語である英語の習得から身に付けたと思われる学習スタイルとビリーフを日本語学習にも反映していること、多言語習得の経験から「言語学習は困難」というビリーフは持っていないこと、さらにフィリピンでは日本語の認知度が高くないが、自身は日本語が就職に有利だと考えていること等が明らかになった。

今後の課題として、フィリピンの多言語状況と日本との関係に配慮して初級段階に適した学習方法を開発すること、および学習継続者のビリーフ調査を行なうことが挙げられる。付け加えれば、今回の調査方法は改善と援用によって他の諸外国の日本語教育の発展に役立てることが可能だと考えられた。

1. はじめに

フィリピンは多言語国家として知られている。国語であるフィリピン語⁽¹⁾とならんで英語が公用語として浸透しているほか、中国語（主に福建語と普通語）が中国系フィリピン人の家庭や学校⁽²⁾で広く用いられ、スペイン語やアラビア語も大規模ではないが家庭や宗教生活で採り入れられている。さらに国語のもととなったタガログ語以外の地方語は、約 120 とも 170 とも言われる⁽³⁾。このような多言語の領域別併用の状況は、ビジネスでの英語の活用や英語文化の即時伝播といった有利さがあることから、政府は国語重要論を説きながらも実際のプロモーションを欠いているとも指摘されている。Jones（2000）が「フィリピンでは、国語、地方語、英語についての問題は他の東南アジア諸国よりも緊張の高いものである」というのは、今日の言語状況が国内の言語間対立ひいては国民アイデンティティの危機を誘引していると指摘するものである。

フィリピンでの日本語教育は、本格化してから 40 年余が経ち、主に大学で選択外国語として学ばれているが、学習者数や学習レベルから見ると他の東南アジア諸国に比べ、あまり盛んとは言えないようである。もとより日本語と上記諸言語とは、習得の環境も社会的位置付けも異なる。そのような日本語を、学習者はなぜ学び、どのような学習を行い、どう感じているのか。以上の

ような点を知ることが、フィリピンの日本語教育には必要であるように思われた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、フィリピンにおける日本語学習者の日本語・日本語学習についての考えを調査し、それらの背景をフィリピンの言語状況の歴史と現在の特徴から考察することである。これは、フィリピンにおける日本語教育の基礎資料となるが、特にフィリピンに派遣される日本語教師にとって、学習者の言語観・言語学習観形成の背景を理解することはフィリピン学習者の特性に配慮した適切な授業をデザインするうえで有益であろうと考える。

3. 研究方法

本研究は、フィリピンの文献研究と、質問紙調査とから成る。

文献研究はフィリピンの現代までの教育史のうち言語に関する事項をまとめ、現代については教育・社会・経済状況と言語についての議論をもとに、フィリピンの今日の特徴を記述していく。

質問紙調査は、学習者の言語観・言語学習観を知るためのもので、Horwitz(1987)が作成したBALLI “Beliefs About language Learning Inventory”を利用する。調査は、フィリピンの日本語学習者の約60%を占める大学生に焦点を当て、マニラ首都圏の以下7大学の日本語学習者とした。調査者数は388名で学習段階は全員初級、調査実施時期は2003年12月から2004年3月である。

アジア・パシフィック大学 (University of Asia & Pacific) : 18 名

アダムソン大学 (Adamson University) : 48 名

アテネオ・デ・マニラ大学 (Ateneo De Manila University) : 117 名

デ・ラ・サール大学 (De La Salle University) : 84 名

フィリピン大学ディリマン校 (University of Philippines, Diliman) : 17 名

マニラ大学 (University of Manila) : 19 名

ライシウム・オブ・ザ・フィリピン (Lyceum of the Philippines) : 85 名

フィリピンの特徴を見出すために、漢字圏対非漢字圏の対照として中国、アジア対非アジアの対照としてハンガリーのそれぞれの大学生のBALLI先行研究と比較した。また、Horwitzの原本BALLIで足りないと思われる質問を「言語学習の適性」「言語学習の難易度」「母語」「教師の役割」の領域について17問加え、全51問とした。

4. BALLI についての先行研究

「言語学習はどのようなものであるか」、「どのようになされるのか」などについて学習者が普

通のものとして持っている思いや価値観は、“Belief (s)”と呼ばれ、日本語では「ピリーフ」「信念」「確信」などと訳されている。Horwitz (1987) は、ピリーフを網羅的に把握するために「言語学習の適性」「言語学習の難易度」「言語学習の本質」「学習とコミュニケーションストラテジー」「動機」の5領域・34問の質問項目から成る BALLI “Beliefs About Language Learning Inventory”を作成した。BALLI 調査の方法は、たとえば「子どもは大人よりも外国語を習いやすい」という短文について回答者が「1. 強く同意する」「2. 同意する」「3. 同意も反対もしない」「4. 反対する」「5. 強く反対する」の5段階の中から自分の考えに近い段階を選ぶというものである。Horwitz は英語学習者と教師のピリーフ調査を実施し、学習者のピリーフがさまざまであること、ピリーフが学習ストラテジーに影響していることなどを明らかにした。その後、他の多くの研究者が各々目的に合わせた質問項目で BALLI 応用版を作成し調査を行っている。

板井 (1997) は、中国復旦大学1年生とその教師を対象に行った BALLI 調査で、日本語力や学習期間によって学習者のピリーフに異なりがあることを明らかにした。また、教師と学習者にもピリーフの違いがあることを指摘した。

若井・岩澤 (2004) はハンガリーで調査を行い、高等教育学習者 89 名、中等教育学習者 161 名のピリーフの特徴と教師とのピリーフの違いを明らかにした。また、ハンガリーでは大学卒業試験のために高い言語能力を必要とすることが、日本語学習のピリーフにも影響を与えていると指摘した。これら二件の調査の結果と今回のフィリピンにおけるピリーフ調査の結果は、「5 結果」で比較して見ていくこととする。

ごく最近、片桐 (2005) が国立フィリピン大学ディリマン校で行った BALLI 結果を報告している。独自の質問項目を加えることで「参加型教室活動を好む」「文法重視」「誤りに対する寛容性がやや低い」等の特徴が示されたが、フィリピンの最高学府と自他共に認めるフィリピン大学1校に回答者が限定されているため、「フィリピン人学習者のピリーフ」として一般化できるかどうかは不明である。

5. 結果

5.1 フィリピンの言語に関する歴史・社会の状況

フィリピンの歴史は、スペインによる支配以前の時代、スペイン支配時代 (1521-1898 年)、フィリピン革命時代 (1898 年)、アメリカ占領時代 (1898-1935 年)、アメリカ連邦フィリピン自治領時代 (1935-1942 年)、日本占領時代 (1942-1945 年)、独立後、に大まかに分けられ、教育上の特徴もこの時代区分に重ねてまとめることができる。

5.1.1 スペイン支配時代からフィリピン革命時代

フィリピンの最初の公教育は、フィリピンを支配したスペインが始めた教会学校だった。教会学校の第一の目的はキリスト教信仰に基づいて植民地体制を普及させることであったが、この目

的はフィリピン文化形成にも決定的だったといわれる。教師となった伝道士が、その土地の方言（地方語）で「(スペイン語の)読み書き」「キリスト教」「教会音楽」「算数」の教科を教えた。教科書に書かれている言語と、教室での教授言語の不一致は、このときから始まった。

この教会学校の受益者はスペインからの移住者の子弟、裕福なスペイン・フィリピン混血児と裕福なフィリピン人に限られ、一般のフィリピン生まれのフィリピン人にはその機会がなかった。フィリピン人が教会で聞く話は、地方語でなされた。それで300年以上のスペイン統治時代の終わりにスペイン語の読み書きができたのは、フィリピン人口の2~3%に過ぎなかったと言われ、フィリピンにおけるエリート階層を形成することになった。

フィリピン革命時代には、“Ilustrados”と呼ばれた教養ある上流階級のフィリピン人たちが、「ごく限られたフィリピン人だけが非母語であるスペイン語で教育を受け得る状況は、植民地体制を温存し一般フィリピン人を無知に陥れ続けている」と批判し、カリキュラム改革を訴えたが、教師を務めた修道士は「キリスト教の福音を普及する最良の方法は現地語で教えること」として、教授言語を統一することに抵抗した(Bago, 2001: 67)。なお、“Ilustrados”内でも、欧州化(スペイン化)をフィリピン近代化と考える立場とそれを否定する立場があり、教授言語もスペイン語容認派と非容認派に分かれていた。

5.1.2 アメリカ統治時代

一般のフィリピン人が教育を受けられるようになったのは、この時代からである。教師は最初アメリカ軍、後に“Thomasites”と呼ばれる米国からの大学新卒の教師団派遣に代わられた。アメリカによる教育は、国民全教育であったことに加え、スペイン時代教育への反発もあって、フィリピンに歓迎された。特に“Thomasites”が教えた民主主義と進歩、フェアプレイの精神は、スペインと好対照を見せる形になり、アメリカ式教育制度が与えたインパクトは現在もフィリピンの教育・文化に強い影響を与えている。

スペイン時代の教育との大きい違いは、英語を共通の媒介語として教育する政策が取られ、学校で地方語を話すことが禁じられたことである。公立学校、政府や企業での英語使用はフィリピンの中流階級を生み、英語が社会的・経済的・文化的生活の面で有利になるキーとなった。

アメリカ連邦フィリピン自治領時代になって、学齢児童人口の増加と教員不足の問題による公立学校の教育の質低下が深刻化した。公立学校は7年制から6年制に短縮される一方、中流あるいは上流級以上の家庭では、7年制を維持している私立学校で子どもを学ばせるようになった。

この両時代の教育について、愛国主義的立場の歴史家の中には、「アメリカの多大な影響によってフィリピンは独立心が萎縮したばかりか、今日に及んでもフィリピン民族の自覚に乏しく、資本主義帝国(米国や日本)からの経済的圧力が自国の貧困を助長していることに無感覚である」と厳しく批判する立場もある(Constantino: 1978)。

5.1.3 日本占領時代

1942 年、フィリピンを占領した日本帝国軍執行部は、6 項目の教育原則を含む宣言を発表した。それは、究極のところ次の 4 点を狙うものだった。1) 日本式教育の推進 2) 新秩序構築のためというフィリピン占領の正当化 3) 西洋の公然非難 4) 日本側に立って東洋の主導権を支援するようにフィリピンを説得する。しかし、戦争中の混沌とした時代であり、教師・父母ともに日本式教育を歓迎しなかったため、多くの学校は開講せずにアメリカ軍が攻勢になるのを待っていたのが現実であった。フィリピン占領 3 年間に、日本は反米のプロパガンダに失敗したばかりか、アメリカ侵略時代には経験しなかった残虐な占領を強行した国という印象をフィリピン人に与える結果になった (コンスタンティノ : 1997, Arcilla : 1998, Bago : 2001, Constantino : 1978) という見解が一般的である。

5.1.4 独立後

1946 年にフィリピンは真の独立を果たしたが、スペイン統治時代に始まった国民の階層化や米国との強い関係は今も残っている。1949 年、フィリピン教育大学 (Philippine Normal College) のフルブライトプログラム (米国本土への留学プログラム) に ESL “English as a Second Language” が導入され、フィリピン人英語教師の養成が本格化した。1960 年代には、英語の授業で「リポート」のテクニックに関心が寄せられ、積極的に採用されるようになった。また、Peace Corps⁽⁴⁾ によって教科書改善も着手された。

一方、国語擁立策として、1946 年から 1974 年までタガログ語ベースの国語 (フィリピン語) を実験的に使用するコミュニティスクールの時期があった。英語とフィリピン語のバイリンガル教育は 1974 年から続いているが、この導入期に私立学校では国語使用の潮流を最初から無視して英語での授業が行なわれた。現在⁽⁵⁾の小学校の授業言語は、国語・社会・保健・音楽などの一部の教科は国語 (フィリピン語)、それ以外の教科は英語である。しかし、実際には地方語が補完言語として使用されており、2000 年の大統領府教育部門は地方語の使用を容認する見解を明らかにした。

現在の英語と国語 (フィリピン語) の二言語公用策、さらに地方語の混在状態については、「母語である地方語による教育推進が児童・生徒の思考力向上の基本である」とする意見、「フィリピンの真の統一のために国語 (フィリピン語) 重点化を維持すべき」という意見、「1970 年代以降の国語推進教育が英語力を低下させ、フィリピンの国際市場での競争力低下を誘引している」という異なる意見に分かれている。

1950 年代には、米国の「フィリピン復興法」による支援とフィリピンから米国企業への内国民待遇、輸入代替工業化政策による地場産業の発展などにより、フィリピンはアジアでも工業化の進んだ先進国となった。1960 年の一人当たり GDP (国内総生産) では、タイや韓国を上回っていた。

しかし、その後タイやマレーシアが外貨導入・輸出振興策を採って高度成長を遂げたのに対し、フィリピンは自国産業保護・輸入代替政策を採ったため、経済成長は低下、1980年代に入りマルコス政権による政治混乱と政情不安で資本が逃避、経済成長率はマイナスに転じた。タイとフィリピンの経済成長率の差を見ると1980～1990年代に拡大しており、これが現在の経済格差を生んだ（UFJ総合研究所：2004）。たとえば、フィリピンとタイを経済指標（2002）で比較すると次のようになる。

表1 フィリピンとタイの経済指標（2002年）

	フィリピン	タイ
対日本輸出（百万円）	818,014	1,314,5934
対日本輸入（百万円）	1,057,668	1,648,578
対日本収支（百万円）	-239,654	-333,984
日本による直接投資（2003年 ¥百万ドル）	196	629
進出日本企業数（2003年11月現在）	375	1,102
教育への公的支出割合 （対GDP比：1999-2001年）%	3.2	5.0
失業率（2002年）%	11.4	2.4

出所：外務省 HP「各国・地域情報」により作表

外国からの直接投資の低さは、フィリピン国内製造業の不振と過剰労働力に直結する。フィリピン人口の1%強（86万8千人）が海外就労者“OFW：Overseas Filipino Workers”として、諸外国でサービス職（35%）・技術専門職（33%）・製造職（25%）等に就いている。渡航先は多い順にサウジアラビア、香港、アラブ首長国連邦、シンガポール、イタリア、英国、クウェート、台湾、ブルネイで、彼らの送金額はGDPの8%に達する。

日本でのフィリピン人女性の就労については、2004年に国際労働機関（ILO）や米国務省から「興行ビザでの就労は人身売買の疑いが強い」との批判を受け、二国間FTA“Free Trade Agreement”の「人の移動」分野での交渉が持たれていたが、2005年、就労ビザの種別をIT技術者と看護師・介護士等の技術専門職へ移行・拡大していくことが合意された。

5.2 BALLI 調査の結果

以下に調査結果を提示する。5.2.1以下5.2.7まで領域ごとに質問項目をまとめるが、回答者が目にするBALLI質問紙では、〔参照〕に示したように無作為に質問項目が並べてある。なお、「5.2.1 母語」については本調査独自のものである。

5.2.1 母語

表2 母語についてのピリーフ

質 問	(1+2) %*	(4+5) %*
日本語は私にとって外国語だ。	90.4	3.4
フィリピン語は私にとって外国語だ。	14.2	77.3
中国語（普通語・福建語...）は私にとって外国語だ。	75.5	17.1
英語は私にとって外国語だ。	44.2	41.9

(*上の各々の問いに「同意する [1 + 2]」と「反対する [4 + 5]」を比較したもの)
(表2 から表8.2 までの太字の数値は、本文で説明を付してあるもの)

「日本語は外国語」では一致するが、その他の数値についてはフィリピン人の第一言語・第二言語の複雑さを表した結果となった。国語（フィリピン語）を外国語だと考える学習者が 14%、英語を外国語だと考える学習者が 44%、中国語を外国語とは考えない学習者が 17% を示した。

5.2.2 外国語学習の適性

本項以下「5.2.7 教師の役割」までは、中国とハンガリーの結果と並列して示していく。それぞれの調査の質問項目は完全に同じではないので、質問によってはいずれかの国のデータがない場合がある。その欄には斜線を引く処理を行なった。なお、中国とハンガリーとではデータ算出の方法が異なるので、「フィリピンと中国」「フィリピンとハンガリー」のように別個に比較した。

中国の調査結果は、5段階回答の1（強く同意する）から5（強く反対する）の平均値を算出したものである。

表3 外国語学習の適性についてのピリーフ（フィリピンと中国）

質 問	フィリピン (5段階平均)	中国 (5段階平均)
子どもは大人よりも外国語を習いやすい。	1.97	1.88
一つの外国語を話すようになったら他の外国語を習うのはもっと易しくなる。	2.8	2.82
女性は男性より外国語を習うのが得意だ。	3.19	2.82
数学や科学が得意な人は、外国語を習うのは得意ではない。	3.93	1.76
誰でも外国語を話せるようになる。	1.5	2.94
私の国の人は外国語を習うのが得意だ。	2.32	2.47
外国語を習う特別な能力を持った人がある。	2.03	2.12
私は外国語を習う特別な能力を持っている。	2.64	3.47

フィリピン人は、日本語学習について男女、理系・文系等の違いによって言語の得意・不得意があるという固定観念には反対し、誰でも外国語が話せるようになって考えている。自国の学習者や自分の外国語能力について特に強い思い込みが見られないことが分かる。

5.2.3 外国語学習の難易度

表4 外国語学習の難易度についてのピリフ(フィリピンと中国)

質 問	フィ* (平均)	中* (平均)
外国語を習うのに一日一時間かけたら上手に話せるまでにどのくらいかかるか。日本語は... (1) 1年以下 (2) 1-2年 (3) 3-5年 (4) 5-10年 (5) 一日一時間ではできない	2.13	3.47
ある言語は他の言語に比べて習いやすい。日本語は... (1) とても難しい (2) 難しい (3) 普通 (4) 易しい (5) とても易しい	2.66	2.53
私は日本語が上手に話せるようになると思う。	1.96	1.59

(*フィ: フィリピン、中: 中国。以下同様)

中国に比較して、習得に必要なだと予測する時間が短い。その反面、「私は日本語が上手に話せるようになると思う」と考える程度が中国より弱い。この理由が、所属学習機関の学習時間のためか日本語に自信がないためかここでは明らかでない。

5.2.4 外国語学習の性質

ハンガリーの調査結果は、5段階回答のうち1(強く同意する)または2(同意する)と回答した割合(X/100%)を算出している。

表5 外国語学習の性質についてのピリフ(フィリピンと中国、フィリピンとハンガリー)

質 問	フィ (平均)	中 (平均)	フィ (1+2)%	ハ* (1+2)%
言葉だけでなく、その文化を理解することが必要だ。	1.65	1.82	89.7	78.9
日本語を習うには、日本に住むのが一番だ。	2.44	1.65	52.8	91.9
外国語を習うのは、他の学科を習うのとは違う。	2.12	1.94	80.2	86.0
外国語学習で最も大切なのは、語彙だ。	1.90	2.71	79.1	77.9
外国語学習で最も大切なのは文法だ。	1.93	3.29	80.2	48.8
外国語学習で最も大切なのは翻訳だ。	2.06	3.71	74.0	49.5
外国語は聞いて理解するより話す方が易しい。	2.85	2.94		
日本語は聞いたり話したりするより、読み書きの方がやさしい。	2.55		49.6	35.4

(*ハ*: ハンガリー。以下同様)

「語彙・文法・翻訳」の三者の重要性のうちフィリピンでは翻訳がやや低いが、差は小さい(どれも重要だと考えている)。中国とハンガリーで、三者の重要度の差が大きいのと対照的である。読み書きと話すことの難しさはだいたい同じくらいだと考えている。

5.2.5 学習とコミュニケーションストラテジー

表6 学習とコミュニケーションストラテジーについてのピリフ
(フィリピンと中国、フィリピンとハンガリー)

質 問	フィ (平均)	中 (平均)	フィ (1+2)%	ハ (1+2)%
いい発音で話すことは重要だ。	1.71	1.71	87.6	33.3
正しく言えるようになるまで話すべきではない。	3.44	3.00	21.9	12.6
初歩の学習者が間違いを許されたら後で正しく話すのは難しいだろう。	2.84	3.58	41.5	87.4
知らない単語を類推するのはOKだ。	3.29	2.41	23.7	49.5
反復練習は大切だ。	1.23	1.59	97.4	87.0
カセットテープで練習するのは大切だ。	2.13	1.71	69.5	81.4
会った日本人と日本語の練習をするのは楽しい。	2.17	1.82	63.9	72.3
他の学習者と日本語を話すのは気が進まない。	2.98	3.59		

フィリピンの学習者はいい発音が重要だと考えている。発音の重視に対して、正確さへの指向(「正しく言えるまで話すべきでない」「初歩段階で間違いが訂正されないと後で正しく話せない」)は、ハンガリー学習者ほど高くない。フィリピンでの教室活動としてなじみのある反復練習を好み、「カセットテープでの練習」「会った日本人との日本語の練習」といった教師不在の場での能動性が必要な学習には、中国・ハンガリーと比較してあまり肯定的でない。「知らない単語の類推」を容認する度合いも低い。

5.2.6 動機

表7 動機についてのピリフ(フィリピンと中国)

質 問	フィ(平均)	中(平均)
私は日本語が上手に話せるようになりたい。	1.30	1.18
日本語ができれば、いい仕事に就くのもっと機会があるだろう。	1.81	2.41
私の国では、日本語を話せることが重要だと思われる。	3.04	2.41
日本語を習えば、日本人をもっと理解できる。	1.93	3.18
日本人の友人が欲しい。	1.59	1.41
外国語の文化背景を知りたい。	1.72	1.24

自分は「日本語ができれば就職に有利だと考えている」が、フィリピン社会は「日本語の重要性を認知していない」という認識のギャップがあることを示している。また「日本語学習が日本人の理解につながる」と考えている。

5.2.7 教師の役割

表 8.1 教師の役割についてのピリフ(フィリピンと中国)

質 問	フィ(平均)	中(平均)
教師は日本語だけでなく日本文化も教えるべきだ。	1.57	1.24

表 8.2 教師の役割についてのピリフ(フィリピンとハンガリー)

質 問	フィ(1+2)%	ハ(1+2)%
外国語学習が成功するためにはよい教師が必要だ。	93.0	98.6
教師が学習のゴールを設定しなければならない。	87.9	27.7
教師がどのように学習が進むかを教えることは重要だ。	84.8	77.9
教師は学習者に学習が進んでいるかどうかを説明すべきだ。	94.3	91.2
教師は、学習者の問題点を指摘しなければならない。	90.0	89.8
教師は学習者がよく勉強するように動機付けるべきだ。	92.0	83.9
教師は学習者の学習条件を整えるべきだ。そうして学習者のサポートを続けるべきだ。	96.0	
学習以外の生活のサポートも教師の重要な仕事だ。	68.8	

フィリピンでは、教師に対する期待が全体に高い。学習の動機付けに始まり、学習の進め方、学習条件“learning environment”、ゴール設定まで教師の役割だと考えている点は、ハンガリー学習者において教師に求めること・求めないことがはっきりしているのとは対照的である。

6. 考察

以下に、BALLI 結果が示したフィリピン人学習者のピリフについて考察する。

フィリピンの学習者が「誰でも外国語が話せるようになる」と考える理由は、「フィリピン人が外国語の特別な能力を持っている」と考えているからではなく(5.2.2 外国語学習の適性) 英語が初等教育段階から教えられ日常的に接しられる環境の要因が大きいものと思われる。

このような外国語に対する「垣根」の低さは、日本語習得にかかる時間をかなり短く見積もるという点にも現れている(5.2.3 外国語学習の難易度)。これは、日本語学習の開始にはよい動機付けであり、実際フィリピンで設置されている日本語教育コースのほとんどが初級前半段階で終了するため、長期学習の見通しを立てる必要がないことを反映している。

中国とハンガリーで「日本語習得のためには日本へ行くのが最善」という意見がとても強いものに対して、フィリピンではそれが低い(5.2.4 外国語学習の性質)。アメリカや英国へ行かずとも字幕なしに英語の映画が理解でき、会話能力でも仕事の機会でも英語母語話者に接しても困らない程度に達する事実が根拠となっているのだろう。

「日本語ができれば就職に有利だと自分は考えている」「フィリピン社会は日本語が重要だとあまり見なししていない」の二つのピリーフは、一見矛盾しているようであるが、他の東南アジア諸国が1980年以降外貨誘致・貿易振興策を採って高度経済成長を達成し、日本とも太平洋戦争時の記憶を越えて新たな協力関係を構築した時期に、フィリピンは米国との経済・軍事同盟の強化と自国産業保護策を優先したことが後を引き、日本との関係は他の東南アジア諸国ほど印象的ではない。さらに政治的不安定さという要因も加わって日本からの投資額はタイの約30%である。また太平洋戦争中、日本が占領したことによる傷はまだ癒えていないという論調が、メディアや知識層から聞かれる。フィリピンで就労に有利な言語は、国内外を問わず英語である。また、歴史的にもフィリピンの公教育は米国によって英語で始められたこと、そこで民主主義等の近代思想も学んだことなど、フィリピンにおける英語及び米国の重要さは推測に難くない。

英語に比較して日本語力が就職の有利さに作用しない社会を反映して、フィリピン社会での日本認知度はあまり高くないと学習者が考えていれば、その学習意欲の維持や学習方法の工夫は内発的になりにくく、教師等他者への依存が高くなるかもしれない。

フィリピン学習者は「反復練習」を好み、「知らない単語の類推」や「カセットテープでの練習」「会った日本人との日本語の練習」といった教師の指導を離れた学習法にはあまり積極的でない。これは、授業が学習の大半を決定すると考えられているものと言えよう。学習分野については「語彙・文法・翻訳」のどれもが重要で、あまり軽重の差をつけていない(5.2.4 外国語学習の性質)。非漢字圏なので読み書きのほうが話すことよりも難しいと思われるが、その難しさはだいたい同じくらいだと考えている。フィリピンの言語生活の特性を授業に取り入れるには、漢字の困難さを軽減するよりも話すことの練習機会を増やすことを優先する方が有効だと思われる。教師の指導を離れた学習への能動性や「語彙・文法・翻訳」の重要性の軽重については、さらに日本語学習を継続し自己の学習についてのメタ認知が働くようになってから、その特徴が見られるようになると推測される。

日本語学習の動機のうち特徴的なのは、「日本語を学べば日本人がもっと理解できる」という意見に同意する割合が中国に比べて高いことである。大学生世代の学習者はメディアや知識層の論調とは別に、日本人理解に関心を持っていることが分かる。先の5.2.5「日本人との日本語練習が楽しい」が、中国、ハンガリーより低いという回答とは矛盾するようであるが、フィリピンの学習者(フィリピン人)にとって日本語は、学習したり練習したりするよりも話したり理解したりするためのものとして認識されているのだと考えれば矛盾しない。また、この考えは諸言語を外国語でなく、第二言語として習得してきた際のピリーフがもたらしたものだと思われるのである。

最後に母語の問題について検討する。この調査はフィリピン語とほぼ同じタガログ語を母語とするマニラ首都圏に限定して行われたが、それでもフィリピン語を外国語と考える割合が14%

もあり、英語と中国語についての認識も一様ではなかった。「フィリピン人の言語状況は個別差が大きい」ことはこの結果から分かったが、それでもなお、上に考察したように、フィリピンの日本語学習者の特徴として明らかになるものがあつたと言えよう。

7. おわりに

フィリピンの歴史・社会と言語状況との関係から、フィリピン・マニラ首都圏大学生の日本語学習ピリーフについて考察してきた。それは、以下のようにまとめられる。

フィリピンでは、英語や中国語が国家や家庭で第一言語として自然習得に近い状況で身に付けられており、バイリンガルやトリリンガル能力は特別な能力ではなく、誰でもそうなれると考えている。この調査の回答者は全員初級段階でコースも短期で修了するので、日本語のように全くの外国語習得に要する時間やコース全容に関する情報がなく、習得に必要な期間を短く楽観的に予想している。また、日本語が話せれば日本人が理解できると考えている。これらは、言語を学習対象としてよりも実際のコミュニケーションの道具として習得してきたフィリピンの学習スタイルとピリーフが反映されているものと解釈される。また学習者は、日本語の認知度がフィリピンでは高くないが、自分は日本語が就職に有利だと考えていることが示された。ここには、フィリピンと日本との歴史や現在の社会・経済関係が作用しているものと思われる。

以上のような結果から、調査回答者には多言語自然習得の環境を外国語である日本語の学習にも引き寄せて考えている面があると推測されよう。一方、展望の見出せる点としては、多言語併用の状況のなかで回答者が「言語学習は困難」というピリーフを形成していないことが見出された。

今後の課題として、フィリピンの多言語状況や日本との歴史的・社会的関係を配慮しながら、初級段階に適したフィリピンでの日本語教育方法を検討していくことが挙げられよう。また、現在は少ないが、中級段階への継続学習者が増えれば初級段階には気づきが出にくかった外国語としての日本語の困難な点が浮き彫りになってくると思われる。引き続き中級レベル学習者のピリーフ調査を行っていくことで、フィリピンの日本語教育の方法を中・長期的視野で検討していくことができるだろうと考える。さらに、今回、フィリピンの言語状況と学習者ピリーフとの関係が浮かび上がってきたが、同じ多言語状況でも他の諸外国・地域に有効であるかどうかは分からない。海外諸国で共通に用いられるような調査を開発できれば、対象国の特性がさらに明確になり、その地にふさわしい日本語教育を進めるのに役立てられると考える。

〔注〕

⁽¹⁾ルソン島中南部の言語であつたタガログ語とほぼ同じ。1959年にピリビノ語、1987年の現憲法時からフィリビノ語と命名され、国語と制定された。

- ⁽²⁾中国系学校の多くでは、三種の教授言語（フィリピン語・中国語・英語）を授業時間帯で使い分けている。たとえば、数学一科目でも午前中は英語、午後は中国語で履修する。
- ⁽³⁾地方語の中には、ピサヤ諸語（セブアノ語、イロンゴ語、ワライ語）のように話者実数がタガログ語を上回る言語もあり、地方語を単純に国語の下位カテゴリーにおくことへ反発する意見もある。
- ⁽⁴⁾米国防務省。教育・農村開発・保健・衛生等広範囲のボランティア活動を行なう。米国政府の主導。日本の青年海外協力隊はこれに倣ったもの。
- ⁽⁵⁾識字率は92.2%（2000年調査）。大学進学率は約30%（職業訓練専門学校レベルを含む）。教育体系は6-4-4制（6年間の初等教育、4年間の中等教育、4年間の高等教育）を採っている。初等教育機関（小学校）は義務教育で、入学年齢は日本より1年遅く7歳児からである。中等教育機関は日本の中学校と高等学校を一緒にしたような教育機関である。

〔参考文献〕

1. 板井美佐（1997）言語学習についての中国人学習者の BELIEFS 上海復旦大学のアンケート調査より」『日本語教育論集』12号、63-88 筑波大学留学生センター
2. 岡崎眸（1999）「学習者と教師の持つ言語学習についての確信」147-158 宮崎里司・ネウストプニー、J.V. 共著『日本語教育と日本語学習』くろしお出版
3. ____・堀和佳子（2000）「言語学習についての確信 - 韓国人日本語学習者の場合 - 、『お茶の水女子大学人文科学紀要』第53巻、185-201
4. 小野原信善（1998）『フィリピンの言語政策と英語』窓映社
5. 外務省「各国・地域情報（タイ王国）」<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>> 2005年7月1日参照
6. ____「各国・地域情報（フィリピン共和国）」
<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/philippines/data.html>> 2005年7月1日参照
7. 片桐潤二（2005）「フィリピンにおける日本語学習者の言語学習 Beliefs - フィリピン大学日本語受講生調査から - 、『国際交流基金 日本語教育紀要』第1号、85-101
8. U F J 総合研究所（2004）『調査情報 - フィリピン経済は ASEAN で勝ち残れるか - 』
9. コンスタンティノ、L. 著 鶴見良行監訳（1977）『フィリピン・ナショナリズム論 上・下』井村文化事業社
10. 若井誠二・岩澤和宏（2004）「ハンガリー人日本語学習者のピリフス」『日本語国際センター紀要 第14号、123-144
11. Arcilla, J.S. (1998) An Introduction to Philippine History. Quezon : ADMU Press.
12. Bago, A. L. (2001) Curriculum Development : The Philippine Experience. Manila : De La Salle University Press.
13. Bernabe, E. J. F. (1987) Language Policy Formulation, Programming, Implementation and Evaluation in the Philippine Education Linguistic Society of the Philippines Monograph No.25 (1965-1974)
14. Conde, H. C. "Long Afterward, war still wears on Filipinos : Economics helps some forget the Past". International Herald Tribune. August 13, 2005.
15. Constantino, R. (1982) Miss Education of the Filipino. Quezon : The Foundation for Nationalist Studies.
16. ____ et Constantino, L.R. (1988) The Philippines : The Continuing Past. Quezon : The Foundation for Nationalist Studies.
17. Espina, S. M. "Is English the Culprit?" La Sallian. July 9, 2003.
18. Grozman, B.M. "Why Filipinos want to work abroad?" Philippine Daily Inquirer. July 25, 2004.
19. Horwitz, E. K. (1987) "Surveying Students Beliefs About Language Learning". 119-129 in Wenden A. and Rubin J. Eds., Learner Strategies in Language Learning. London : Prentice-Hall.

- 20 . Jones, G. M. (2000) “Some Language Planning Questions Facing Brunei Darussalam, Singapore, Malaysia, and the Philippines” 226-238 in Bautista, Ma. L.S., Llamzon, T. A., and Sibayan, B.P. eds., Parangalcang Brother Andrew. Manila : De La Salle University Press.
- 21 . Richard, G. K. (1995) “Student’s and Teachers’ Beliefs About Language Learning”. Foreign Language Annals 28, 1 : 71-92.
- 22 . Sibayan, B. P. (1963) “Repetition in Language Classroom”. Philippine Journal for Language Teaching. 2. 21-25.
- 23 . _____ (1999) “Issues and dilemmas in language and language teaching in the Philippines” 439-446 in The Intellectualization of Filipino. Manila : De La Salle University Press.
- 24 . _____ (2000) “Resulting Pattern of Sociolinguistic, Socioeconomic, and Cultural Practice and Behavior after more than Four Hundred Years of Language Policy and Practice in the Philippines”. 247-258 in Bautista, Ma. L. S., Llamzon, T. A., and Sibayan, B.P. eds., Parangalcang Brother Andrew. Manila : De La Salle University Press.

〔 参照 〕

フィリピン・マニラ首都圏の大学版 BALLI 質問紙

QUESTIONNAIRE ‘BELIEFS ABOUT LANGUAGE LEARNING’

This is the survey on Japanese Language Learning. The purpose of this survey is to clarify the needs and beliefs of Filipino Japanese Language learners and to propose the idea to Japanese Language education in the Philippines.

Since this is not a test, there are no “ right” or “ wrong” answers and, of course, your answers will be treated with the strictest confidence.

It will take 10-15 minutes to answer. Please give your answers sincerely as only this will guarantee the success of the survey. Thank you.

Michiyo TAKASAKI

Japanese Studies Program, International Studies Department, De La Salle University

~~~~~

Below are the beliefs about learning foreign language by some people.

Read each statement and decide your opinion by the indicator below :

Choose one from ( 1 ) - ( 5 ) as indicated above in each question.

- ( 1 ) strongly agree.      ( 2 ) agree.      ( 3 ) neither agree nor disagree.  
 ( 4 ) disagree.      ( 5 ) strongly disagree.

- 1 . It is easier for children than adults to learn a foreign language.
- 2 . Some people have a special ability for learning foreign languages.
- 3 . A good teacher is required in order to succeed in the study of a foreign language

## フィリピン・マニラ首都圏の大学における日本語学習者のピリフ

- 4 . Some languages are easier to learn than others. Japanese is :  
( 1 ) a very difficult language                      ( 2 ) a difficult language  
( 3 ) a language of medium difficulty              ( 4 ) an easy language                      ( 5 ) a very easy language
- 5 . A teacher has to point out the problems of the students to them.
- 6 . I want to know the cultural background of the foreign language.
- 7 . I believe that I will learn to speak Japanese very well.
- 8 . A teacher should explain to the student whether his/her study is progressing.
- 9 . People from my country are good at learning foreign languages.
- 10 . It is important to speak Japanese with an excellent pronunciation.
- 11 . Understanding not only the language but also their culture is necessary.
- 12 . It is necessary to know about Japanese-speaking cultures in order to speak Japanese.
- 13 . A teacher must set up a study goal.
- 14 . You shouldn't say anything in Japanese until you can say it correctly.
- 15 . It is easier for someone who already speaks a foreign language to learn another one.
- 16 . People who are good at mathematics or science are not good learning foreign languages.
- 17 . Learning a foreign language helps me in not only Japanese culture but also Japanese society, political science, and so on.
- 18 . It is important for a teacher to teach how study should be advanced.
- 19 . It is best to learn Japanese in Japan.
- 20 . I enjoy practicing Japanese with the Japanese I meet.
- 21 . It's o.k. to guess if you don't know a word in Japanese.
- 22 . To motivate students is an important work of the teacher.
- 23 . If someone spent an hour a day learning a language, how long would it take to speak the language very well?  
( 1 ) less than a year              ( 2 ) 1-2 years                      ( 3 ) 3-5 years  
( 4 ) 5-10 years                      ( 5 ) You can't learn a language in 1 hour a day.
- 24 . Successful learners learn even mind-set of native speakers and apply it when they speak the foreign language.
- 25 . A teacher should motivate students to study hard.
- 26 . I have a special ability for learning foreign languages.
- 27 . The most important part of learning a foreign language is vocabulary words.
- 28 . It is important to repeat and practice a lot.
- 29 . A teacher should prepare set the learning environment etc. They should continue their support for their students.
- 30 . Women are better than men at learning foreign languages
- 31 . People in my country feel that it is important to speak Japanese.

- 32 . The support of the student's life other than learning is also important work for the teacher.
- 33 . I feel timid speaking Japanese with other people.
- 34 . If beginning students are permitted to make errors in Japanese, it will be difficult for them to speak correctly later on.
- 35 . The most important part of learning a foreign language is the grammar.
- 36 . I would like to learn Japanese so that I can get to know Japanese people better.
- 37 . It is easier to speak than understand a foreign language.
- 38 . It is important to practice with cassettes or tapes.
- 39 . Learning a foreign language is different than learning other academic sublets.
- 40 . The most important part of learning Japanese is learning how to translate from my native language.
- 41 . If I learn Japanese very well, I will have better opportunities for a good job.
- 42 . People who speak more than one language are very intelligent.
- 43 . I want to learn to speak Japanese well.
- 44 . I would like to have Japanese friends.
- 45 . Japanese teachers should teach not only Japanese but also Japanese culture.
- 46 . Everyone can learn to speak a foreign language.
- 47 . It is easier to read and write Japanese than to speak and understand it.
- 48 . Japanese is a foreign language for me.
- 49 . Filipino is a foreign language for me.
- 50 . Chinese ( Mandarin, Fukien ... ) is a foreign language for me.
- 51 . English is a foreign language for me.

SEX : ( M / F )      AGE : (      )

SCHOOL : (      ) MAJOR/COURSE (      ) ( 1/2/3/4/      ) year student

Japanese Learning experiences : (      ) MONTHS

\_\_\_\_\_